

教育評価部会 < 研究の経過と概要 >

部会長 日下部小学校 川崎 剛

① 研究の経過

年度	研究内容と成果・課題
2009	単元を通した1枚ポートフォリオを用いた評価の研究（国語科） ・読み取りの深まりや気持ちの変化を見取ることができた。
2010	道徳における1枚ポートフォリオを用いた評価の研究 ・学習前，学習後における児童の道徳的価値の高まりを見取ることができた。
2011	1枚ポートフォリオの作成・活用の研究（生活科・社会科） ・表現する力が伸び、理解が深まったことを見取ることができた。
2012	1枚ポートフォリオの作成・活用の研究（算数科・理科） ・1枚ポートフォリオを振り返ることや交流することで自己肯定感が高められ、学習意欲向上にも効果があることが確認できた。
2013	1枚ポートフォリオの作成・活用の研究（国語科・道徳） ・学びの足跡を児童自身が振り返ることができ、意欲の向上や自己の成長につながることを確認できた。
2014	1枚ポートフォリオの作成・活用の研究 ・課題：「評価する際の指標となる言葉」，「PDCAサイクルに1枚ポートフォリオがどう関わっているか」
2015	いろいろなポートフォリオについての研究 ・児童の実態や教師の思いなどによって柔軟に変えて作成できた。
2016	これまでの研究の成果を生かした評価の研究（生活科・音楽科） ・低学年生でもポートフォリオ評価が有効的であることを実証できた。 ・課題：「1枚ポートフォリオをどう広めていくか」，「他の評価方法など研究の幅を広げていくことが必要」
2017	これまでの研究の成果を生かした評価の研究，教師の言葉がけ（評価言）と子どもの変容についての研究（学級活動・算数科） ・教師の言葉がけ（評価言）を研究内容に取り入れたことで研究の幅を広げることができた。 ・課題：「道徳，外国語・外国語活動など新しい教科が加わってくるので，今まで積み上げてきたものを基にして評価の方法を探っていく」，「評価言について逐語録をとるなど，具体的に取り上げて残していくような方法をとる。」

② 本年度の研究テーマ 「生きる力」をはぐくむ評価のあり方

③ テーマの設定理由

平成29年3月31日に改訂された新学習指導要領の解説には、「生きる力」について、「児童一人一人が、社会の変化に受け身で対応するのではなく、主体的に向き合っていて関わり合い、自らの可能性を発揮し多様な他者と協働しながら、よりよい社会と幸福な人生を切り拓ひらき、未来の創り手となるために必要な力を変化の激しい実社会を主体的に力強く生きていく力」であると定義されている。

この「生きる力」をより具体化し、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力を整理したのが、「知識・技能」・「思考力・判断力・表現力等」・「学びに向かう力・人間性等」

の涵養)」の三つの柱である。

同指導要領の「学習評価の充実」の項においては、「児童のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること。また、各教科等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすること。」と述べられている。

また、同解説の「学習評価の充実」の項には、「教師が児童のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、児童が学習したことの意義や価値を実感できるようにすることで、自分自身の目標や課題をもって学習を進めていけるように、評価を行うことが大切である。」・「学習の成果だけでなく、学習の過程を一層重視することが大切である。特に、他者との比較ではなく児童一人一人のもつよい点や可能性などの多様な側面、進歩の様子などを把握し、学年や学期にわたって児童がどれだけ成長したかという視点を大切にすることも重要である。」・「児童による学習活動としての相互評価や自己評価などを工夫することも大切である。相互評価や自己評価は、児童自身の学習意欲の向上にもつながることから重視する必要がある。」等々、述べられている。

以上のことから、「生きる力」をはぐくむために、学習評価の果たすべき役割は、大変重要であると言える。そこで本部会では、研究テーマを「『生きる力』をはぐくむ評価のあり方」と設定し、「生きる力」を育む評価のあり方について、研究を深めたい。

具体的には、昨年度までの研究の継続として、「1枚ポートフォリオの取り組み」・昨年度の反省で出された、「評価言の取り上げ」等を研究の柱として取り組んでいきたい。

④ 研究内容と方法

- ・1枚ポートフォリオの取り組みや、教師の言葉がけ（評価言）についての資料等の持ち寄りや、実践発表による学習会を行い学び合う。
- ・研究授業に向け、部会員全員で授業づくりを行い、研究授業を通して、よりよい1枚ポートフォリオでの評価や、教師の言葉がけ（評価言）と子どもの変容について研究を深める。
- ・できれば「道徳・外国語・外国語活動」の評価についても情報交換を行う。

⑤ 今年度の研究の経過と今後の計画

第1回（5月9日）春季教研

- ・今年度の部会員の顔合わせと役員の決定。

第2回（5月23日）

- ・研春季教研の還流報告と今年度の研究のテーマや設定の理由について提案と協議。

第3回（6月13日）

- ・評価についての学習会①「1枚ポートフォリオ」・「教師の言葉がけ（評価言）と子どもの変容」について、これまでの実践を持ち寄り、学習を深めた。

○三枝一哉教諭（日川小学校）

理科 年間通して使える山梨スタンダードに則ったノートの書式の提案。

○竹川 きよみ教諭（日川小学校）

2年算数「かけ算」の1枚ポートフォリオの提案

○原藤 生府教諭（加納岩小学校）

「評価言」の著者、菊地省三先生の講演の概要報告。

- 高野恵美子教諭（後屋敷小学校）
 - 1年道徳「きらりとかがやくわたし」・1年生活「もっとしりたいな せんせいのこと」・1年算数「どちらがながい」の1枚ポートフォリオの提案
- 清水 利子教諭（日下部小学校）
 - 1年生活「わたしのはなをさかせたい」・2年「おひさま もりもり まるかじり」の1枚ポートフォリオの提案
- 小椋恵美教諭（八幡小学校）
 - 3年算数「はしたの大きさの表し方を考えよう〔小数〕」の1枚ポートフォリオの提案
- 第4回（8月6日）「夏季学習会」
 - ・8月の夏季統一授業研究の授業案検討
- 第5回（8月29日）「夏季統一授業研究」
 - ・飯島恵教諭（日下部小学校）2年生 国語科の授業研究
- 第6回（9月19日）「秋季教研」
 - ・飯島恵教諭，統一授業研究後の様子の報告，県教研レポートについて
 - ・評価についての学習会②（1人1実践報告）
- 武井 美香教諭（八幡小学校）
 - 6年学級活動「運動会を成功させよう」・道徳「お別れ会」・「ブランコ乗りとサーカス」の1枚のポートフォリオの提案
- 第7回（11月28日）
 - ・県教研の報告 / ・評価についての学習会③
- 第8回（1月9日）
 - ・2月の冬季統一授業研究の授業案検討 小林みずほ教諭（日川小）4年生
- 第9回（2月6日）「冬季統一授業研究」
 - ・小林みずほ教諭（日川小）4年生
- 第10回（2月13日）
 - ・研究のまとめ

- 1 単元名「大好きなものを、わかりやすくつたえよう！（『大好きなもの、教えたい』）
～知識や経験、思いなどの伝えたい事柄を整理して、順序立てて話す力～

2 単元の目標

- ◎伝えたいことについて、必要な材料を集め、話す事柄を考え、丁寧な言葉遣いで話すことができる。
・姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意し、一音一音をはっきりした発音で話すことができる。

（話すこと・聞くこと（1）ア、イ、ウ）

（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（1）イ（ア））

3 単元について

（1）学習系統

2年になり、本単元までに、下記の学習経験を積んできた。

- ・指導者の指示を落とさないように聞くこと
- ・必要な事柄を落とさないように聞いたり、声の大きさや速さに注意してはっきり話したりすること
- ・「はじめ・中・おわり」の構成を意識して、友だちと感想を伝え合うこと

（2）教材観

本単元では、自分が大好きな物事を友達に発表する言語活動に取り組む。児童にとって、自分の大好きな物事について話すというのは、とても楽しい活動で、思いと言葉が溢れてくる。この思いや言葉を整理し、聞き手に伝わる発表を目指していく。また、メモを基に順序立てて話す活動を通して、筋道を立てて話す基礎を養いたい。さらに、質問や感想が言えるように集中して聞く活動を通して、話の中心に気を付けて聞く基礎を養いたい。

この時期の児童は、「ピアノで～が弾けるよ。」「～に旅行に行ったよ。」など、自分のことを素直に話すことができる。また「～ちゃんは…の練習、がんばってすごい。」など、友だちのことも素直に感心したり褒めたりできる。自分が大好きなことや得意なことを話したり、それを聞いたりすることは、互いの人間関係をいっそう深めることにもなり、今後もあらゆる場面で生きるものである。

（3）指導観

本単元では、何よりも一人ひとりの「大好き」という思いを大切にする。この思いが、伝える原動力そのものだからである。第1次では、教えたい「大好き」を選び、そのよさや理由など、伝えたいことを考えさせる。その際には、内容が妥当であるかということではなく、その子なりの考えを尊重する。また、よさや理由、知っていることなど伝えたいことをたくさん挙げさせることで、「大好き」という思いを再確認させる。このことが、発表準備や発表を行うエネルギーとなる。

第2次では、発表のために必要なメモを書き、発表の練習（ミニ発表会）を行う。発表の構成については、「こんなもの、見つけたよ」においても、「はじめ・中・おわり」の構成を学習してきている。「はじめ」で何の話をするのか、「中」では教え

たいことについての詳しい話、「終わり」では、発表が終わることを伝えることといった既習事項を想起させながら、伝えたいことを書かせる。特に、「中」のまとめりでは、「一つ目は、～。二つ目は、～。」のように、伝えたいことを順序よく整理することで、分かりやすくなる。メモを書き上げた児童は、自分の文章に自信を持ち、早く友達に「大好き」を教えたいと考えている。この思いを生かしながら発表内容の練り上げを行うために、少人数でのミニ発表会を行う。ここでは「もっとよくするため」というスタンスで、発表後にはアドバイスタイムを設ける。話す相手を変えながら繰り返し練習したり、友達の発表に対してアドバイスしたりする場を設定し、全体の場で発表をすることにも自信を持って取り組めるようになる。

第3次では、既習事項を生かして全体に発表をする。聞き手には、「どのような理由やよさで教えたい事柄を選んだり、順番を決めたりしているか」という発表内容の選択や構成についての見方・考え方を働かせて聞き取らせたい。ミニ発表会は、少人数の試し・練習としての位置づけだが、ここでは、単元を通してのゴールとなる。話し方と内容についての感想や質問が出てくると予想される。内容の感想・質問には、発表者が紹介した事柄に関するものと、順序などの構成に関するものがある。全ての感想・質問を大切にしつつ、特に構成についてのもの（身に付けさせたい力に関するもの）は、意図的に価値付け、全体で共有するようにする。

4 児童の実態（男子11名 女子12名 計23名）

学習への取り組みは意欲的な児童が多いが、学ぼうとする姿勢や集中力、発言力、作業の速さや丁寧さ、学習内容の理解や定着には個人差が大きく、個別に指導が必要な児童も数名いる。教材・教具の工夫や「めあてー振り返り」を明確に示した板書を含めた授業過程の工夫、個別の支援などにより定着を図っている。

自分の考えを発表する場面では、考えの根拠を「なぜかという～だからです。」と理由づけして説明することができる児童もいるが、友達の考えとの違いを理解して聞いたり、発言したりできる児童は少ない。

<話すこと・聞くことに関わって>

1年生から、毎日朝の会で、話題を決めて発表を行っている。1年生では、話題に関することとその理由で2文、2年生ではそれに加えて終わりの文を付け加えて、三文で話すようにしている。3文で話すことで、「はじめー中ーおわり」といった構成をやや意識できるようになってきた。声の大きさや速さなどは、個人差があるが、友達の前に出て話すことに抵抗のある児童はいない。発表後、質問の時間も取っている。そうすることで、友達が知らせたいことは何かを、落とさないように聞くことができるようになる。また、相手により興味を持つことにもつながっている。

聞くことについては、繰り返し声掛けをし「相手の目を見て、最後まで」聞くことを意識させてきた。1学期の半ばでは、学級力のアンケートを取って、クラス全体で「聞く姿勢」がまだ十分でないことを確認した。聴く姿勢をもっとよくするためには、具体的にどうすればよいか全員で話し合った。そこで、「相手の目を見て最後まで聞く」ことを目標にすることを確認した。個人差はあるが、集中して話を聞けるようになってきた児童が多くなってきた。今後も、声掛けを続けていく。

5 研究に関わって

◇研究内容

テーマ 【「生きる力」をはぐくむ評価のあり方】

(1)

1枚ポートフォリオの取

組 (2) 教師の言葉がけ(評価言)

(これまで) ◎1枚ポートフォリオの取組

1年生の国語「じどう車くらべ」では、毎時間授業のふりかえりカード(1枚ポートフォリオ)として書き、その時間に何を学んだか、友だちの発表を聞いてなるほどと思ったことは何か、自分の言葉でまとめることができた。外国語活動でも、「ふりかえりカード」を1年生から続けている。2年生になってから、国語でふりかえりカードを書くのは、この単元が初めてだが、国語や算数では、毎時間ノートに学習感想(今日のニコちゃん)を書かせている。その結果、学習感想を書くことに抵抗を感じる児童はいない。ただ、何をわかったか、できるようになったか、より詳しく書くことには差がある。

◎教師の言葉掛け(評価言)

子どもを認めたり励ましたりするときには、より具体的に、どの部分が良かったのかを伝えるようにしたり、みんなに伝わるように感情豊かに褒めたりしている。また、子どもたちの中で使うと嬉しくなるきらきら言葉(ふわふわ言葉)を、教師も使うようにしている。嬉しいときには一緒に喜び、指導を入れるときには、教師の感情を伝えるよう心掛けている。

(本単元において) ◎1枚ポートフォリオの取組

- ・毎回の授業の最後に「ふりかえりカード」に学習感想を書くことで、授業の達成感や次の学習への興味や関心を高めることにつなげる。カードには、学習課題に合った項目もつけ、課題が達成できたかわかりやすくする。

◎教師の言葉掛け(評価言)

- ・「大好きなもの」のよさや理由、知っていること、また、友達のよさやアドバイスを、詳しく考えることができた児童に、「～が～だからすごいね」と言葉を掛け、みんなの前で共有する。教師が意図的に目標につながる考えや言葉を取り上げていくことで、学級全体の話す力を高めていく。

6 単元の評価規準

	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
単元の評価規準	○大好きなものを伝えようという意欲をもっている。	○伝えたいことについて、必要な事柄を集めている。 ○相手に伝わるように、話す順序を考えて話している。 ○みんなに聞こえる声や速さで話している。	○事柄の内容を表したり、経験を伝えたりする言葉の働きに気付いている。

7 指導計画・評価計画 (全6時間)

時	学習活動	指導上の留意点	おもな評価規準
<p>1 伝えたい「大好き」を考えよう  興味や関心を高める  見通しをもつ</p>			
1	<p>○既習の「こんなもの見つけたよ」の単元を想起させながら、学習計画を立てる。</p> <p>○大好きなものをできるだけたくさん書き出す。</p>	<p>・「こんなもの見つけたよ」での実際の文章を提示して、学習したことを想起できるようにする。</p> <p>・「大好き」という思いを大事にするため、1つに限定せずできるだけ多くの「大好き」を挙げさせる。</p>	<p>関 学習の見通しをもち、大好きなものを伝えようという意欲を持っている。 [発言・観察]</p>
2 ・ 3	<p>○大好きなものについて、発表するものを1つに決める。</p> <p>○大好きなものよさや理由、知っていることなど、たくさんの「大すき」を書き出す。</p>	<p>・「大好き」なものよさや理由をたくさん挙げさせて、思いを再確認させる。</p> <p>・1つに絞れない児童には、教師が大好きなものについて詳しく尋ねることで、具体的に考えられるようにする。</p>	<p>話・聞 発表するものを選び、伝えるために必要な事柄を考えている。 [ワークシート・観察]</p>
<p>2 ミニはっぴょう会で話し方のれんしゅうをしよう  知識・技能を習得する  共に考えを創り上げる</p>			
4	<p>○たくさんの「大すき」の内容から、自分なりの観点を決め、発表の構成に着目して、発表メモを書く。</p>	<p>・「はじめ・中・おわり」のまとまりを意識させる。特に、「中」では、一番先に伝えたい理由から書くように順番を意識して書くよう、助言する。</p>	<p>伝 事柄の内容を表したり、経験を伝えたりする言葉の働きに気付いている。 [ワークシート]</p>
5 本 時	<p>○メモを見ながら、グループでミニ発表会を行う。</p> <p>・姿勢や声の大きさ、速さなどに気を付けて話す。</p> <p>・聞き手は、よかったところとアドバイスを考え伝える。</p>	<p>・わかりやすい話し方は何かを考えながらミニ発表会を行う</p> <p>・聞き手は、よかったところでは、話し手の気持ちになって「こう言ってもらえたらうれしいな。」と思う言葉、アドバイスでは、「こうするともっとよくなるよ」と思う言葉で伝えるよう助言する。</p>	<p>話・聞 姿勢や声の大きさ、話の順序など、聞き手に分かりやすい話し方を意識して練習をしている。 (観察・ワークシート)</p>
<p>3 「大好きなものはっぴょう会」をひらこう  知識・技能の活用をする  自分の思いや考えと結び付ける</p>			
6	<p>○「大好きなものはっぴょう会」を開く。</p> <p>・前時で学習した話すときのコツを生かして発表する。</p> <p>・友達のよさを探しながら聞く。</p>	<p>・自分のめあてに沿って、振り返りができるようにする。</p> <p>・友達の発表のよさに、目を向けられるようにする。</p>	<p>話・聞 相手に伝わるように、話の順序に気を付けて発表している。[発表]</p> <p>話・聞 丁寧な言葉遣いで、みんなに聞こえるように発表することができる。</p>

ピクトグラム：「新たな学びに関する教員の資質能力向上のためのプロジェクト」より
独立行政法人教職員支援機構 次世代型教育推進センターより引用

8 本時の学習

(1) 日 時 平成30年8月29日(水) 5校時(14:00~14:45)

(2) 場 所 2年2組教室

(3) 本時の目標 ○ミニ発表会を通して、わかりやすく話すために必要なことがわかる。

(4) 本時の展開

学習過程	学習活動と内容	指導上の留意点
導入 5分	1 問題を捉え、本時の目標を知る。 ・話すことや聞くことで大切なことを考える。	・話し方で大切にしたいことを子どもに聞き、出た考えを黒板に示す。同様に、聞き方で大切にしたいことにも触れ、聞き手も大切な役割であることを意識させる。 ・本時のめあてを提示する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> ミニはっぴょう会で、わかりやすい話し方を考えよう。 </div>		
展開 37分 (4分)	2 グループを作り、練習の進め方を確認する。 (グループ：4人または3人)	・練習の進め方を説明しながら、実演させる。
(20分)	3 グループでミニ発表会を行う。 (ミニ発表会の進め方) ①グループの1番から発表する。 ②発表後、聞き手はピピッとカードを記入する。 ③アドバイスタイムでピピットカードの内容を伝える。 (③の活動で予想される反応) ・声の大きさが良かったよ。 ・ゆっくりで聞きやすかったよ ・大すきなりゆうがよく分かった。 (アドバイス) ・本番はもっと大きな声で言えるよ、みんなにもっとつたわりやすいかも。 ・2つのわけが似てたから、くっつけてもいいね。 ・早いから、もっとゆっくり読むといいよ。	・一人5分(発表1分、カード記入1分、アドバイスタイム3分)を目安に、タイマーで時間を区切り、全員が話し手と聞き手の練習をできるようにする。 ・聞き手による感想の伝え方について、例をいくつか提示する。よかったところでは、話し手の気持ちになって「こう言ってもらえたらうれしいな。」と思う言葉、アドバイスでは、「こうするともっとよくなるよ」と思う言葉で伝えるよう助言する。 ・話し手は、感想を言ってもらったら「ありがとう」と相手に言うように声を掛ける。

<p>(8分)</p>	<p>4 話し手は、聞き手からの感想を受けて、2回目のペアの練習で意識してがんばりたいことをワークシートに記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 早く書き終えた児童は、2回目がんばりたいことを発表し、気を付けたいポイントを全体で確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 改善の意識を高められるように、2回目に何をがんばりたいのかを発表させ、全体で気を付けたいポイントを確認させてから練習に取り組ませる。
<p>(5分)</p>	<p>5 自分の話し方を見直して、ペアで2回目の練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ～さんみたいに、もっと大きな声で言いたいな。 2回目は…をがんばります。 2回目は～に気を付けます。 1回目と同じくらいの声の大きさで言うようにしたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> 2回目にがんばりたいことを意識させるために、ペアにがんばりたいことを伝えてから練習をする。 2回目に「がんばりたいこと」を意識しているかを確認するため、机間指導を行う。 <p>話・聞友だちに自分の発表を聞いてもらい、内容や姿勢、声の大きさなどに気を付けてわかりやすく話すことができるように練習している。(観察・ワークシート)</p>
<p>まとめ 3分</p>	<p>6 次回の授業についての説明をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 次の時間には、大好きなものの発表会を開くことを伝える。 <p>7 学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ふりがえりカードを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 早く終わった児童に、次回の発表会でがんばりたいことを聞く。 2～3人に発表させて、意見交流をはかる。

板書計画

<p>まとめ (ミニ発表会后 子どもから出た意見)</p>	<p>話し方</p> <ul style="list-style-type: none"> 大きな声で 気もちをこめて はっきりと ゆっくり言う 目を見て <p>聞き方</p> <ul style="list-style-type: none"> あい手の目を見て いつでもどこでも うなづきながら えがおで おわりまで 	<p>めあて</p> <p>ミニはっぴよう会で わかりやすい話し方を考えよう。</p>
-----------------------------------	--	---

研究会から

9 本時のふり返り

(1) 研究テーマ「生きる力」をはぐくむ評価のあり方に迫る授業であったか。そのために、どんな有効な手立てが見られたか。

(i) 1枚ポートフォリオの取組

- ・1枚ポートフォリオを見ると、単元全体の学習の流れがよくわかる。
- ・コメントを教師が丁寧に書くことにより、次の時間への意欲が湧く。
- ・ワークシートとふりかえりをポートフォリオにつなげていることで、流れが分かりやすく、よく工夫されている。
- ・ポートフォリオに、学習課題に合った項目もあり、課題が達成できたかわかりやすかった。

→目標に迫る有効な手立てとなった。

(ii) 教師の言葉がけ(評価言)

- ・「なるほどね…ということだね」など、子ども達の思考を広げる言葉が指導言として、有効だった。
- ・「アドバイスがない」と言った児童には、「アドバイスをすると、本番の発表会の際に、お友達がもっと上手に言えるようになるよ」と伝え、その後アドバイスを書くことができた。

→目標に迫る有効な手立てとなった。

(2) 授業の流れから

(導入) ・丁寧に押さえたので、それを根拠に子ども達が考えることができた。

- ・教材のピピッとカードが有効だった。

▲目標が「話す」ことについてだったが、聞く時間の方が長い気がするが、それでよいか。

→聞く人がいるから話せる、話すことと聞くことは、密接に関わっている。

(展開) 〇ピピッとカード(児童相互評価カード)について

- ・カードをよく聞いて書き、その後アドバイスを言っている児童が多かった。
- ・1人目よりも、3人目の方がアドバイスの書き方が身に付いてきていた。
- ・ピピッとカードで、アドバイスを言うことは、子ども達同士の相互評価であり、児童の学習意欲の喚起につながっている。

・いろいろな授業で、このピピッとカードは使えそうである。

・もらったカードを1枚に貼っておくことで、自分のこれまでをふり返ることができ、自分の課題を見つめることができる。教師も、評価ができ活用ができる。

→▲発表をよく聞きよく書いていたが、アドバイスを書くのに一生懸命で、渡すだけになってしまった児童もいた。

▲もう少し大きな声で話すといいよ、とアドバイスをしているときと、もう少し大きな声で読むといいよ、とアドバイスをしているときがあった。思いを伝えるという点では、「話す」という表現が適切なので、しっかりと

押さえるべき。

○発表の仕方（1回目：グループ 2回目：ペア）

- ・グループの発表では、繰り返していく内に、相手を意識できるようになった。
- ・2回目のペアの発表では、1回目のアドバイスが生かされていた。そのため1回目のメモを変えて読めるようになっていた。
- ・1回目はピピッとカードに書いていることを伝え、何を改善すればよいかを形として残った。2回目では、言葉で口でアドバイスをした。違いがあったのが非常に良かった。

（その他）

- ・前向きによく取り組んでいる。良かったところもアドバイスも、適切に書いている。だから、カードをもらったときは、とても嬉しそうだった。
- ・保護者から、コメントをもらってもよい。
 - ▲発表を終えた児童には、1回目の発表後の感想を書かせてもよかった。
 - ▲人それぞれでアドバイスが違うときがあった。
 - ▲声の大きさが、クラスで発表をするには小さい声ではないか。
→具体的な基準があるとよい。
 - ▲時間の設定が、発表1分カード記入2分アドバイスタイム2分でも良かった。
 - ▲2回目の頑張りたいことの「なぜかというところ…」の部分を深く考えさせたい。この部分が本時のねらいである。

（指導・助言）

- ・クラスの一人ひとりが生かされている、ということが授業からわかる。
- ・クラスの学習環境がよい。
- ・1回目のグループでの発表があって、2回目のペアでよくしようとするのが、相互評価につながる。グループからペアに変えたのが有効だった。
- ・ワークシートの流れがよく、工夫されている。
- ・話すこと・聞くことと合わせて書くこと、どの部分においてもよい学習になっている。
- ・保護者と家庭学習を通して、つなげてみてはどうか。

10 事後の活動

「大好きなことはっぴょう会」

本時では、発表会の前に、発表会で話すときと聞くときに気をつけたいことを、ワークシートに記入した。前時で出し合った話し方や聞き方を再度確認すると、その他にも意見が出てきた。（下記の写真）その話し方・聞き方や、前時に友だちからもらったアドバイスを参考にしながら、気をつけたいことを考えていた児童が多かった。

発表会では、話すときに気をつけることを発表してから、大好きなことを発表した。そうすることで、聞き手は、何に気をつけて聞けばいいか注意して聞くことができた。どの児童に対しても、質問や感想が多く出た。質問では、大好きなことに関する話の内容について、感想では声の大きさや早さなど、話し方に関するものが多く出た。

また、聞き手は、友だちのいいところを付箋に記入をした。挙手ができない児童も、付箋でいいところを詳しく記入していた。友だちのがんばりをよく見ていて、温かい言葉を書くことができた。付箋をもらった児童はとても嬉しそうで、何度も読み返しをしていた。ただ、質問や感想が多かったため、1時間では終わらず、国語の時間や学活、朝の会で発表をしたので、発表の仕方は工夫が必要である。

1.1 成果と課題

(1) 成果

- ・「大すきなもの」を題材にすることで、伝えたいという意欲が高まり、活動の原動力となった。
- ・ポートフォリオを使用したことにより、子どもが見通しを持てたので学習意欲が継続できた。ポートフォリオの連続性が、有効な手立てとなった。
- ・振り返りに教師が励ましの言葉を添えることで、子どもはそれを楽しみにし、次にどこをもっと直せばいいか意識をし、意欲が高まると感じた。
- ・大好きな理由をたくさん考えたり、大好きなもののよさや知っていることなどを考えることで、自分なりの思いを持って、発表をすることができた。
- ・ミニ発表会を取り入れたことで、発表に自信のない児童も話すことができた。話す経験を繰り返すことで、話す能力が身に付いていくと感じた。
- ・ミニ発表会後の全体発表会では、発表前に話すことで自分が気を付けることを発表させた。それにより、聞き手は、そのこと（声の大きさやスピードなど）を意識しながら、聞くことができ、発表後の感想では、そのことができていたかを伝えていて、有効な相互評価となった。
- ・この単元で、友だちに初めてアドバイスをするという経験をした。最初は、アドバイスを考えられない児童もいたが、「アドバイスをすると、お友達がもっと上手になるんだよ。そのための魔法の言葉だよ」と伝えると、アドバイスを考えるようになった。教師の言葉がけの大切さを感じた。
- ・ミニ発表会では、全体発表会をよりよくするためという意識で、声の大きさや速さなどについての意見が多かった。全体発表会では、質問では発表の内容に関するもの、感想では話し方に関するものが出てきた。
- ・国語の授業以外でも、よりよい話し方や聞き方を意識できるようになった。

(2) 課題

- ・第1次に、大すきなものをたくさん挙げさせたが、そこから発表したいものを1つに絞ることが難しかった。
- ・子どもなりの基準では、大きな声で発表できたとしていたが、誰にでも聞こえるような声で話す、ということにはまだまだ差があるので、教師が見本を示したり、見本となる児童に話してもらったりする機会を増やしたい。
- ・発表のメモを用意し、そのメモを頼りに発表できたが、それをそのまま「読む」ことになってしまう児童が多かったため、メモは最低限にし、子どもなりの言葉で「話す」ことを大事にした方がよかった。
- ・お友達の発表に興味を持っている児童がとても多く、全体の発表では、質問や感想がたくさん出てきた。時間が足りなくなってしまったので、朝の会や帰りの会などの時間も有効活用したい。